

コロナ以前と以後の家計支出

コロナ禍に入り、私たちの生活は、いかに感染拡大を防止するかに基軸を置いたものに変化した。これに伴い、各家庭では食料を買い込む、マスクを常備する、外食はしないなど、家計の支出にも変化が生じた。家計調査を用いて、コロナ前とコロナ禍の支出変化を俯瞰する。

本稿では、コロナ禍が家計に及ぼしている影響を把握するため、家計調査結果を、コロナが発生する前(コロナ前)と、コロナ禍の影響を受けている現在(コロナ禍)に分け、比較を行った。両期間の具体的な時期は以下の通りとしている。

コロナ前：2018年7月～2019年6月までの1年間
 コロナ禍：2020年7月～2021年6月までの1年間

なお、家計調査は、家計の消費動向を把握する資料として大いに参考になる一方、県内のサンプル数は毎月240前後で、十分な数とは言えない。また、調査対象世帯も毎月6分の1が入れ替わる仕様となっている。こうした要因で実態との誤差が大きくなる点についてご了承ください。

沖縄の家計の支出は増加

まず、家計が毎月どれだけの金額を支出しているのかを見ていく。全国におけるコロナ禍の平均消費支出は1世帯1カ月当たり28万2628円(図表1)。コロナ前より2.7%の減少である。対して、県内のコロナ禍の平均消費支出は22万4103円。コロナ前(21万8543円)との比較では

2.5%増と、全国結果が減少した中、沖縄は増加という結果であった。その要因に関して、確かなことは言いにくいですが、本土においては被服費や交通費が大きく減少したのに対し、沖縄ではこの2項目の減少が限定的であったことなどが考えられる。

図表1 二人以上の世帯における1カ月の平均消費支出

	コロナ前	コロナ禍	増減率
全国	290,547円	282,628円	2.7%減
沖縄	218,543円	224,103円	2.5%増

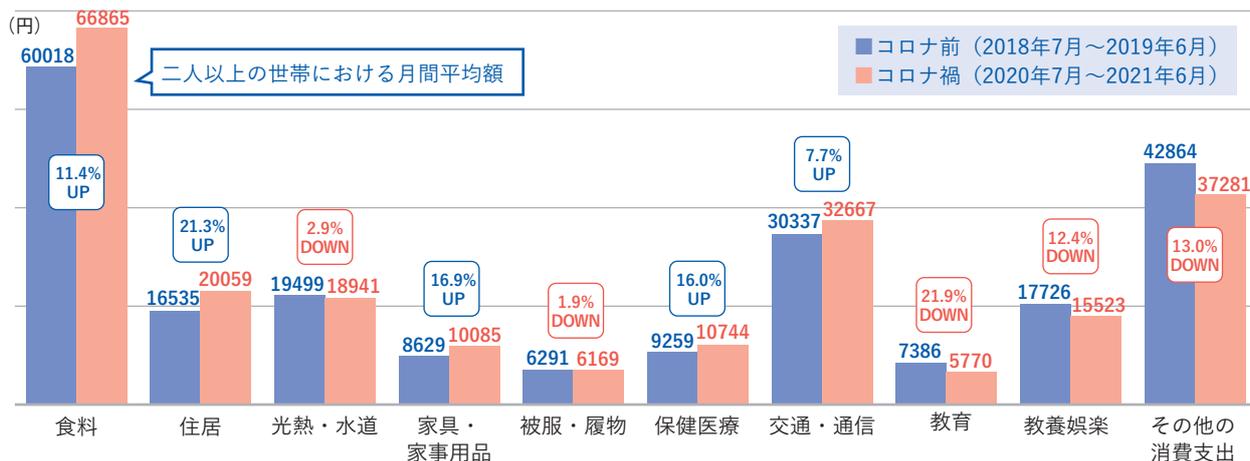
(出所) 家計調査を基に作成

支出分類毎で見るコロナ禍の影響

消費支出は、大きく10項目で構成されている。これら10項目の1世帯1カ月あたりの消費額を、コロナ前とコロナ禍で比較したのが(図表2)だ。増加、減少共に5項目という結果だ。

(図表3)は、10項目の下にぶら下がる品目の月額消費額である。購入頻度が少ない品目においては、誤差が大きくなるため、網掛けで示した。細かな品目の動きを見ていくと、昨今よく聞かれる巣籠もり需要など、コロナ禍特有の変化

図表2 県内におけるコロナ前とコロナ禍の月間消費額



が感じられる内容となっている。それぞれの項目の概要は以下の通りである。

【食料】11.4%増 全体としては、在宅勤務、休校措置などで自宅での食事が増えたと見られ、食料は全体として増加。他方、外出自粛要請などで、外食は減少。なお、外食の変動額は、8,052円から6,986円に1,066円(13.2%)の減少だった。この支出は、食材や酒類にスライドしたと考えられる。

【住居】21.3%増 特に設備修繕・維持が235.9%で大きく増加し、住居関連の伸びに寄与した。自宅で過ごす時間をより快適化しようとする志向があったと考えられるが、設備修繕・維持は、リフォームなど、一定の規模のある支出項目にあたり、もとより購入頻度が少ない項目であることから、実態との誤差は大きいと考えられる。

【光熱・水道】2.9%減 自宅で過ごす時間が長くなったことから、水道光熱費は増加すると想定されたが、結果は2.9%の減少に留まった。一部の市町村における水道料金の減免措置や、電気料金の値下げなどが要因の一つとして考えられる。

【家具・家事用品】16.9%増 自宅で過ごす時間が増えたことから、全体として増加した。室内装備・装飾品、寝具類、雑貨などが大きく伸びている。

【被服および履物】1.9%減 出勤機会の減少、入学・卒業式の中止、イベント自粛等により、被服関連の大幅なニーズ低下が想定されたが、全体としては微減に留まった。被服関連の多くが、購入頻度が低い項目であるため、一定の誤差が考えられる。

【保健医療】16.0%増 コロナ禍の中、健康を意識する世帯が増えたと考えられ、全体が増加した。

【交通・通信】7.7%増 購入頻度の非常に少ない「自動車購入」をした世帯が多かったことから、交通・通信全体を押し上げた。ただし、在宅勤務や休校要請もあり、バス代やモノレール代などが含まれる交通費は2472円から1311円に半減している。

【教育】21.9%減 学費等の授業料や塾代などの補習教育が大きく減少したことで、全体として減少した。一方で、休校措置の中で、自宅学習の充実が図られたと考えられ、教科書・学習参考教材が大きく増加した。

【教養娯楽】12.4%減 旅行や習い事等を含む教養娯楽サービスが大きく減少し、全体としては減少した。一方で、テレビやパソコン、タブレット等を含む教養娯楽耐久品、文具、スポーツ用品、テレビゲーム等を含む教養娯楽商品は増加した。

【その他の消費支出】13.0%減 コロナ禍の中、余計な出費が抑えられたと考えられ、全体として減少した。こづかいが大きく減少したほか、お歳暮、お中元などの贈答品を含む交際費も減少した。

以上が県内家計が受けたコロナ禍の影響の概要となる。コロナ禍で蒸発した需要、別品目にスライドした需要が見られたほか、中には抑制された結果今後の爆発が期待されるものもあるのではないかと。誤差に気を付けて読み解き、次のビジネスにつながるヒントを探してみたいかがだろうか。(海邦総研 地域経済調査部/瀬川 孫秀)

図表3 県内におけるコロナ前とコロナ禍の月間消費額

分類	コロナ前(円)	コロナ禍(円)	増減率(%)
食料	60,018	66,865	11.4
穀類	5,385	6,078	12.9
魚介類	3,649	4,091	12.1
肉類	5,886	7,047	19.7
乳卵類	3,169	3,116	-1.7
野菜・海藻	7,399	8,109	9.6
果物	2,295	2,568	11.9
油脂・調味料	3,146	3,588	14.1
菓子類	4,749	5,901	24.2
調理食品	9,314	10,687	14.7
飲料	4,358	5,412	24.2
酒類	2,616	3,283	25.5
外食	8,052	6,986	-13.2
住居	16,535	20,059	21.3
家賃地代	14,627	13,651	-6.7
設備修繕・維持	1,908	6,407	235.9
光熱・水道	19,499	18,941	-2.9
電気代	10,364	9,904	-4.4
ガス代	3,924	4,198	7.0
他の光熱	531	415	-21.9
上下水道料	4,679	4,425	-5.4

分類	コロナ前(円)	コロナ禍(円)	増減率(%)
家具・家事用品	8,629	10,085	16.9
家庭用耐久財	2,845	2,695	-5.2
室内装備・装飾品	238	420	76.7
寝具類	381	662	73.7
家事雑貨	1,670	2,370	41.9
家事用消耗品	2,976	3,405	14.4
家事サービス	519	531	2.4
被服及び履物	6,291.4	6,169	-1.9
和服	24	15	-37.6
洋服	2,577	2,692	4.4
シャツ・セーター類	1,300	1,379	6.1
下着類	570	511	-10.4
生地・糸類	73	107	47.0
他の被服	421	432	2.7
履物類	1,051	812	-22.8
被服関連サービス	275	222	-19.5
保健医療	9,259	10,744	16.0
医薬品	1,731	1,984	14.6
健康保持用摂取品	823	1,198	45.6
保健医療用品・器具	1,891	2,068	9.4
保健医療サービス	4,814	5,494	14.1

分類	コロナ前(円)	コロナ禍(円)	増減率(%)
交通・通信	30,337	32,667	7.7
交通	2,472	1,311	-47.0
自動車等関係費	15,205	18,909	24.4
通信	12,660	12,448	-1.7
教育	7,386	5,770	-21.9
授業料等	5,418	3,911	-27.8
教科書・学習参考教材	171	406	137.1
補習教育	1,797	1,453	-19.2
教養娯楽	17,726	15,523	-12.4
教養娯楽用耐久財	1,371	1,805	31.7
教養娯楽用品	3,932	4,806	22.2
書籍・他の印刷物	2,284	2,191	-4.0
教養娯楽サービス	10,140	6,720	-33.7
その他の消費支出	42,864	37,281	-13.0
諸雑費	15,274	14,564	-4.6
こづかい(使途不明)	5,430	4,035	-25.7
交際費	15,083	12,991	-13.9
仕送り金	7,077	5,690	-19.6

※網掛けは、1万世帯あたりの購入世帯が1000世帯以下(全国ベース)で、支出額等の誤差が比較的大きいと考えられる項目
(出所) 家計調査を元に作成